

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：乳児を科学的に観る：発達保育実践政策学の始動
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
 - ・主催：東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター（Cedep）
 - ・後援：日本発達心理学会、日本赤ちゃん学会、日本保育学会、
教育関連学会連絡協議会（順不同）
- 3 開催日時：平成28年3月27日（日） 13時00分～17時00分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨：

日本学術会議第22期マスタープランに教育学分野の「学術の展望」に基づき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」に基づく提案である。乳幼児を取り巻く保育環境および保育政策の現状と今後の在り方に関して、発達基礎科学と保育実践両方の立場から掘り下げて再考した。
- 6 参加人数：256名
講演者等：19名（登壇者14名、随行者1名、スタッフ4名）
その他の参加者：237名
- 7 特記事項：
 - ①雑誌『遊育』に本会の内容を紹介する記事が掲載された（4月11日付（2016年第7号p22-23））。『日本教育新聞』に本会の内容を紹介する記事が掲載された（4月11日）。
 - ②会途中・終了後に収集した質問用紙記述内容を登壇者に共有し、回答を得、それをCedepウェブサイトに掲載し、議論を更に深める機会を作った。Cedepで会の報告書を作成し関連領域の研究者・団体に送付し、本会でなされた議論を当日参加できなかった関係者との間でも行う予定である。参加者がアンケート用紙に連絡先（Emailアドレス）を記入した場合、Cedepで今後開催するシンポジウム・研究会の案内を流すことになったが、これを通じて周辺領域の関係者とのネットワークが更に強化されることが期待される。